

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育理念 人権教育と特別支援教育を推進しながらキャリア教育と聴覚障がい教育の融合を図って、我が国の平和と繁栄を支える人材を育成する。

教育目標 聴覚に障がいのある生徒の後期中等教育の充実をめざした教育を実践し、一人ひとりの生徒の自己実現に向けた教育を行う

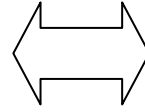
学校の使命 青年期の聴覚障がい生徒の持てる力を最大限に伸ばし、派生する課題をワンストップで対応する

校訓 「自立 規範 明朗」

学校スローガン「自ら学び自ら変わること社会に貢献する」

重点目標

- 1 生徒一人ひとりの実態に応じた進路指導・学力向上の充実
- 2 本人や保護者の思いに寄り添える学校づくり
- 3 聴覚高等支援学校として、より質の高い教育の提供



めざす生徒像

- 一人ひとりが生き生きとした活力のある生徒
- チャレンジ精神にあふれた生徒
- 互いを助け合いながら共に生きる生徒

めざす学校像

- 変化を怖れず挑戦する学校
- 地域に開かれた信頼される学校
- 安全で安心できる学校

2 中期的目標

(1) 聴覚障がい生徒一人ひとりの実態に応じた進路指導・学力向上の充実

- 社会的自立に向けた生徒の意識改革と学校風土の醸成（自律と自立心を養い実行力・実践力のある生徒・自己管理のできる生徒）
 - ・キャリア教育を充実させるためデュアル実習の整理と発展を図る。事業所現場体験・見学の学習を全学年で実施、高大連携を本科を中心に試みる。現場体験実習や就職面接会等を経験した先輩を「モデル」として活かしたキャリア教育を平成 27 年度全学年で実施するとともにキャリア教育と結びついた生徒指導の徹底を図り、学校風土の醸成を図る。
 - ・生徒自治会活動での自己管理を徹底させ平成 27 年度の遅刻、懲戒件数の平成 26 年度の半減を図り、自己管理のできる生徒をめざす。
 - ・クラブ活動では実績の発信をし、高校等との交流をより一層進展させ、平成 27 年度も近畿大会・全国大会の優勝をめざす。
- タブレット型 P C と文字情報システムを中心にした情報保障を充実させ基礎学力の定着・発展と国語力（特に書いて表現する力）を伸長を図る
 - ・学校経営推進費によるタブレット型 P C と電子黒板の導入により双方向性の授業を実施するとともに多様なコンテンツを活用して個別指導の充実を図り、大学進学を範囲を広げていく。27 年度までに希望する大学への進学率を 85% にし新たに国公立大学合格者を出す。
 - ・タブレット型 P C を活用した自学自習の環境を整備し、自ら発信する力を高めるとともに 27 年度には全生徒に自学自習・時間管理等を定着させる
 - ・伝統文化に触れる学習として俳句等の学習を継続的に行う。28 年度までに「だいせんの生徒からの発信（詩集・句集・抱負）」として生徒の思いを乗せた冊子を発行
 - ・各種試験等における受験者の学力結果を 27 年度中に 10% 以上あげ、全生徒の資格取得を図る。29 年度 ASL 資格取得を図る。
- 国際交流等をととしてグローバル人材の育成を図り、海外での学習も視野に入れた教育の充実を図る
 - ・国際交流を推進するとともに海外への大学進学を図る。平成 27 年度 I C T 機器を活用して海外の学校交流を実施し、A S L（アメリカ手話）等の手話講座を継続する。検討した海外の大学進学に向けたカリキュラムをまとめ平成 28 年度国際コースの設置を行う。ネットを活用した交流を深めつつ、カリキュラムに基づく指導の検証と大学状況確認。短期留学を試みる。平成 28 年度ネットを活用した日常的な交流を図りつつ、国際コースを充実させ、海外の大学（ギャローデット等）への挑戦を試みる。
- 進路・就職指導のネットワークの充実
 - ・キャリア教育の充実をより一層推進する。現場実習や見学会、高大連携での校内外の活動をキャリア教育の視点で検討した「だいせんのキャリア教育」を冊子にまとめる。
 - ・関係機関との連携と組織化を図る。平成 27 年度にアフターケア体制の在り方をまとめ「だいせん懇話会」を立ち上げ、ネットワーク化し青年期の聴覚障がいの課題等の相互の情報交換の場としたい。

(2) 本人や保護者の思いに寄り添える学校づくり

- 安全で安心できる学校教育活動の推進
 - ・緊急連絡体制や地震対応、不審者対応の充実を図る。引き続き学校評価等学校への意見をホームページ等も活用して声が届きやすくする。
 - ・27 年度はハザードマップ・お願い手帳（25 年度作成）等活用した主体的な緊急時の避難指導を行う、また生徒会活動にも緊急時の対応や支援者としての役割についての取り組みをさせる。
 - ・引き続き 27 年度地域の清掃活動や校内美化の活動をキャリア教育の視点からの取り組み、28 年度以降地域の美化活動を継続的に実施
- 保護者・地域から信頼され、一人ひとりの教職員がやりがいのある学校づくり
 - ・「個別の教育支援計画」の作成と活用を通じて保護者との共感と連帯感をつくる。平成 27 年度に保護者への使い方要項を作成
 - ・27 年度タブレット型 P C を中心に I C T 機器活用での授業の充実を図り、家庭での反転学習・時間の自主管理を行う、28 年度自己管理・表現に活用できるようにする。29 年度は情報ツールとしての日常的な活用を図る。
- 地域への発信を高め、聴覚障がい生徒の青年期の課題等への支援ネットワークづくり
 - ・地域との関係を文化教室等で深めるなか青年期の課題の啓発を図り、27 年度高等学校等との支援ネットワークの構築、28 年度はコディター研修会等をととして相互交流を図る
 - ・福祉避難所（25 年度指定）を堺市から受けていることを踏まえ、27 年度は地域に聴覚障がい生徒の緊急時の対応の啓発を実施。28 年度には地域の防災との連携ネットワークを作る。29 年度は地域関係者との懇談会をもち、非常時の対応策の確認を行う。

(3) 聴覚高等支援学校として、より質の高い教育の提供

- 学校組織としての専門性の向上（人材育成、地域支援の充実）
 - ・個別の教育支援計画の活用例や発達障がい等の継続した理解啓発を進め、27 年度にプロジェクトチームを設置し 28 年度聴覚障がい生徒の二次的な状況への対応事例集を作成する。
- 教職員の資質と専門性の向上をタブレット型 P C ・文字情報システム・電子黒板等 I C T 機器等（授業力向上、教材開発等）を活用して行う
 - ・教職員一人ひとりの授業評価に基づく授業改善の工夫を図るとともに、タブレット型 P C を中心に文字情報システム等の I C T 機器を活用した実践研究の発信を行う。「活用実践集」をもとに継続研究した内容を平成 27 年にまとめとして発表する。28 年度教育課程開発研究を行う。
 - ・I C T の活用等先行事例や研究者の講義を受け、27 年度までに本校の I C T 活用の事例アイデア・工夫集作成。28 年度は文字情報システムとタブレット型 P C 等 I C T 機器活用を学校全体のシステムで完成させる。
 - ・27 年度は、校内 Wifi 環境を活かしたタブレット型 P C と文字情報システムとの連携した聴覚障がい生徒の情報保障のモデルとして全国に発信し聴覚障がいの理解啓発の一助とする。29 年度にむけて更なる活用事例の集積を図り、科学研究補助事業に応募できる状況を作る。
 - ・キャリア教育と職業教育について整理し「だいせん聴覚高等支援学校版キャリア教育」まとめを 27 年度に行い発行する。
 - ・27 年度は A S L（アメリカ手話）授業、講習の継続、I C T 機器を活用した日常的な教員交流と短期留学への派遣、海外の聴覚障がいの教

府立だいせん聴覚支援学校

育について小冊子にまとめる。28年度に国際交流の指導モデルとしてまとめ発表する。29年度は授業での交流をより推進する。

○ 職業学科である専攻科の充実を図る

- ・27年度は時代に応じた教育内容を充実させ28年度には時代に応じた機器と指導内容の完成を図る。29年度は他校や大学との連携を図る。
- ・情報コミュニケーション科においてタブレット型パソコンやタブレット型PCを用いてネットワーク構築やマクロやソフト開発に向けた授業を実施し、28年度にだいせん聴覚高等支援学校自主開発ソフトを作成する。29年度は自主開発ソフトの提供を行う。
- ・27年度高大PJを立ち上げ本科で大学連携実施・専攻科で検討28年度カリキュラム検討29年度専攻科卒業大学編入カリキュラム完成

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|---|---|
| <p>[本校の教育全般等]</p> <p>本校はその特色をより一層明確にするために「だいせんアクション6プラン」を行っている。一つめは、個に応じた進学体制を充実させた学力向上事業、二つめは全員がタブレット型PCを活用して自学自習、自己管理、自己表現の力をつけ学力増進・資格取得を図る全ての教室でICT事業、三つめは国際的視野を持つ生徒を育てるグローバル人材育成事業、四つめは法改正に基づき専攻科から大学編入の道をめざす高校・大学連携事業、五つめは生徒指導を徹底し社会人として自己実現を図るキャリア教育充実事業、六つめは授業力の向上や生徒理解を深める教員の専門性充実・発展事業である。これらの取り組みをどうして本人や保護者の思いに寄り添う学校づくりを進めた、保護者における「全般的に満足できる」の満足度91%「本校には他校にはない良さ(特色)がある」満足度91%(前年比+10%)であった。生徒において同様の項目でそれぞれ70%、67%の満足度であった。保護者のニーズは全体として捉えている。生徒のニーズは本科と専攻科で差があり「全般的に満足」では61%と91%「他校にない良さ」では60%と82%の満足度であった。次年度はさらにタブレット型PCの日常活用による自学自習、自己管理、自己表現の力を高め、グローバル人材の育成のまとめをしながらキャリア教育をより徹底させ、聴覚障がい教育の充実のための「だいせんアクション6プラン」の継続した実践を行い、発信を続けたい。</p> <p>[進路指導・キャリア教育]</p> <p>本校のキャリア教育と生活指導を中心に据えた取り組みは、「進路指導のシステムへの信頼」について保護者満足度は94%であり、従来より93%を超え定着している。また、教員の進路に関する取り組みについては今年も97%の満足度であり、保護者同様ここ数年95%を超えている。</p> <p>本校のキャリア教育は着実に定着し、さらに大学進学・就職に向けた進路指導の土台となる日常の生活指導が両輪となっている現状が反映している。今後さらに、個々の教員が社会人の模範であるという組織風土。</p> <p>作業検査等職業教育での検査についての十分な説明は、満足度が保護者86%生徒68%教員80%である。職業検査の意義は、継続的に説明をしていく必要がある。次年度以降、キャリア教育充実事業として位置付けて「だいせん聴覚高等支援学校のキャリア教育」として「モデル化・実習体験・社会体験」をキーワードにその実践をまとめ、発信して行く必要がある。</p> <p>[学習指導等]</p> <p>タブレット型PC等ICT機器を活用し教材や授業の工夫を行い「分かりやすい授業」に取り組んでいる。教材や指導方法の工夫について、保護者96%、教員98%、生徒88%の満足度であった。タブレット型PCの日常的な活用をはじめICT機器活用が定着した。一人ひとりに応じた指導を行っていることについては、保護者90%教員89%の満足度あった。興味深い授業については、生徒の満足度は、生徒全体が66%であったが、本科57%、専攻科86%と差がある。生徒の理解度をにに応じた工夫やアクティブラーニングの取り組みを進め自学自習の仕組みを作っていかなばならない。また、学校クラウド活用の反転学習や自学自習の取組を次年度も継続して実施していく必要がある。</p> <p>[生徒指導等]</p> <p>学科長・学年主任会議が定着し生徒指導への情報共有と組織的対応が進んだ。生徒指導部は、学年と深く連携できた。「学校の生徒指導は適切である」に対して、保護者90%生徒78%教員65%の満足度で保護昨年度同様であったが遅刻件数、懲戒件数は激減した。生徒指導の一貫性と情報共有が定着した結果である。「問題行動への組織的対応」では、依然、世代差、学科による差が見られる満足度は68%であり、その傾向は続いている。全教員が責任を持って対応する意識は、生活指導部の粘り強い指導で徹底できた。次年度は、本科と専攻科の生活指導の違いを明確にして必要性があるのか、検討することと生徒指導の基本が学年であることを押えた指導体制の構築が必要である。より組織的な生活指導体制を作ることが課題である。</p> <p>[学校経営]</p> <p>「学校の良さ(特色)がある」では保護者満足度91%と継続して高い評価を得ている。学校経営推進費事業を2事業進めた結果、学校の中に挑戦への風土ができた。これらの実績と伝統を踏まえ、創立10周年を迎えた機会に「だいせんアクション6プラン」として、これからの「だいせん聴覚高等支援学校」が進む6事業を発表することができた。「子どもの成長を</p> | <p>第1回 6月29日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成27年度学校経営計画及び学校評価 ○教育課程について ○平成26年度卒業者の進路状況と平成27年度卒業予定者の進路希望状況 ○生活指導について ○全ての教室でICT(学校経営推進費事業 平成25年度からの3年計画)について ○聴覚障がい生徒のグローバル人材育成計画(学校経営推進費事業 平成26年度からの3年計画) 国際交流・アメリカ手話の授業について ○情報保障の取り組み <p>意見・提言概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○SNSに関するトラブルが会社でも起こっている。社会に出ても問題となることも多いので、学校でもきちんと指導しておいて欲しい。 ○メールの使用量が多いので大事なメールが埋もれてしまうことがある。重要なメールには必ず返信することを指導してもらえると大変ありがたい。 ○クラウドを学校が使うことはすばらしい。クラウドにあげる内容等の確認はどのような仕組みになっているのか。確認のシステムと担当を明確にすることが必要でないか。 ○国際交流を深める際に、アメリカ手話は役立つと思うので授業でしっかりと取り組んでほしい。 ○情報リテラシー、情報モラルについては高校で多い。どうも生活習慣の確立することがそのおおもとにあると思う。時代に応じた丁寧な指導が必要である。 <p>第2回 12月10日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校経営計画の進捗状況について(だいせんアクション6プラン) ○創立10周年記念事業について ○生徒指導について ○平成27年度卒業予定者進路状況について ○どこでもICT事業についてタブレット型PCの活用状況 ○情報コミュニケーション科の取り組みについて ○授業評価・学校評価について <p>意見・提言概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○だいせんアクション6プランは、プランだけでなく具体的な実行につながる展開がされていて企業でも実行までプランに展開できてないことがあり、非常に参考になった。 ○クラウドによる自学自習・自己管理・自己表現力の向上に力を入れていることはすばらしい。卒業してからも自分で情報を集める前向きな社員とそうでない社員では社会人としての幅の広がりが違うので、是非継続して取り組んで欲しい。 ○生徒を信頼して上手く学校でタブレット型PCを活用していることをもっと地域の小中学校にPRして欲しい。 ○生徒からみてタブレット型PCの活用で困っていることも把握する必要がある。 ○教える側の先生方のタブレット型PCの習熟度の向上を図るためにも、公費での支給が必要ではないか。 ○生徒自治会の情報モラル講習会は生徒同士が論議することで、真面目に考える機会となるのでいい取り組みである。 ○次の10年を見据えて、大学との連携を深め、専攻科から大学進学への道を作る挑戦を是非続けて欲しい。 ○デフリンピックに出場して経験のある先輩たちの後輩に向けたトークショーの企画は素晴らしい。是非、スポーツの機会を積極的に作って欲しい。 <p>第3回 平成28年2月8日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成27年度学校経営計画及び評価について ・「だいせんアクション6プラン」をもとに中期目標との関連を踏まえて報告 ○学校評価の分析と考察 ○平成27年度卒業予定者進路状況 <p>意見・提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ○だいせんアクション6プランは、全体的な構想がわかやすい。学校経営計画の中期目標と合わせると学校の理解が進む ○全国的に専攻科の人数が減るなかで、専攻科卒業から大学へ編入できる制度ができて高大連携プロジェクトの意義は大きい。夢のある制度なので是非頑張ってもらいたい。 ○世の中へ出た時の交わり方、挨拶の項目が学校評価にあるが、このようなマナー教育や人とのかかわり方を指導することは大切である。 ○先輩の体験を聞く会、専攻科の生徒の就職体験を後輩に伝える会などの取り組みは、後輩に伝えることが、当事者同士となるのでより理解が深まると思う。素晴らしい。 ○生徒自治会の挨拶運動や地域の清掃活動は、どんどん進めて欲しい。地域も手伝うことがあれば積極的にやっていきたい。 ○もっと学校の実践を地域にアピールをして欲しい。学校の事をより理解してもらおうこと |

府立だいせん聴覚支援学校

実感している」89%「保護者の要望や意見を尊重した教育活動」84%「一人ひとりに応じた指導」90%の保護者満足度である。教員は、キャリア教育の視点に立ちながら保護者の声を大切に、障がいの特性を理解して一人ひとりに応じた対応していることが表れている。生徒の評価が全体として保護者より低いことは、挑戦する課題にむけた粘り強い指導が影響している。引き続きコミュニケーション方法も含め日常的な生徒との関係作りを工夫していきたい。学校環境は、「安全な学校生活を送れるような配慮がある」94%「清掃が行き届いている」99%「学習環境の面で満足できる」96%と保護者満足度は引き続き極めて高いものであり継続していきたい。

につながる。

- タブレット型PCの取り組みはモデルとなる取組みであるが、携帯を含め機器を使っ
てのコミュニケーションは当事者同士のコミュニケーション力を弱めているように思う。
最近の若者コミュニケーション力の衰えを感じる。きちんとその辺りの指導をしていく
ことを忘れてはいけない。
- 遅刻半減、懲戒は3分の1と激減しているのは、指導の中身が充実したことのあらわれ
である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|--|--|---|---|--|
| <p>聴覚障がい生徒一人ひとりの実態に応じた進路指導・学力向上の充実</p> | <p>(1) 社会的自立に向けた生徒の意識改革と学校風土の醸成(自律と自立心を養い実行力・実践力のある生徒)</p> <p>ア キャリア教育の徹底と学力向上・資格取得の推進</p> <p>イ 生徒指導体制の充実と自己管理の意識の醸成</p> <p>ウ 生徒自治会の活動の参加促進と部活動の推進</p> <p>(2) 情報保障を充実させ基礎学力の定着・発展と国語力(特に書いて表現する力・記録する力)の伸長を図る</p> <p>エ タブレット型PCと文字情報システムを活用した授業実践と学校クラウドを活用した自学自習の推進</p> <p>オ あらゆる機会を活用した国語力の向上</p> <p>(3) 国際交流をとおしてグローバル人材の育成を図り、海外での学習も視野に入れた教育の充実を図る</p> <p>カ 海外の豊学校等との交流を図る</p> <p>キ 国際コースに向けたカリキュラムの検討を行う</p> <p>(4) アフターケアに対応した進路・就職指導のネットワークの構築</p> | <p>(1)</p> <p>ア・本校のキャリア教育の特徴の啓発と共有</p> <p>・社会の実情を知る体験として就職合同説明会見学や実習体験等の取組みの実施</p> <p>・モデル化の推進として先輩から後輩が学ぶ機会の設定</p> <p>・生徒各自のタブレット型PCを活用した時間管理やメモをとる習慣の形成</p> <p>・生徒がタブレット型PC等ICT機器を活用したプレゼン体験によるコミュニケーション力の育成</p> <p>イ・社会を意識した学校風土づくりによる教員モデルの徹底とキャリア教育を基盤とする生徒指導体制の徹底を図る。</p> <p>・学科長・学年主任会議で生徒指導部とより一層の連携を図る。</p> <p>・日常的な生徒指導の観点の共有</p> <p>・自己管理・自己責任の醸成</p> <p>・ホームルームの活用</p> <p>・会議の効率化と運用及び目的の明確化</p> <p>ウ・生徒自治会の活動推進を図るため日々の学校生活に各係活動等を組み込んでいく。</p> <p>・地域貢献活動を立案、推進。</p> <p>・地域や校内美化等の具体的な活動の展開。</p> <p>・キャリア教育の視点による係活動の整理と実行</p> <p>(2)</p> <p>エ・学校クラウドを活用した反転学習による自学自習の取組み</p> <p>・学力向上に向けたタブレット型PCと文字情報システムを活用した授業研究と教材の発信</p> <p>・タブレット型PCアプリや電子黒板、電子黒板ユニット等を活用した「分かりやすい」授業実践</p> <p>・ネット等活用した新しい学びの形を探索</p> <p>・校内実力考査の継続実施と活用</p> <p>オ・各教科等をとおした国語力の伸長</p> <p>・表現力や記録する力を伸ばすためのタブレット型PCの活用</p> <p>・教科やホームルームで記録をとるメモを書く等の工夫を進める</p> <p>・俳句や詩等により表現する力を伸ばす</p> <p>・学力向上・資格取得に向けた教育課程</p> <p>・国際交流の推進及び海外大学への意欲喚起</p> <p>(3)</p> <p>カ・タブレット型PC等ICT機器を活用して海外の豊学校等と交流を図る</p> <p>・ASL(アメリカ手話)等の授業と講習会を継続実施するとともに実践の発信を行う。</p> <p>・大学関係者との連携を深め共同研究を行う</p> <p>キ・海外の豊学校等との具体的な交流の実施と海外での聴覚障がい教育の現状把握する</p> <p>・短期留学の検討を行い、手引きを作成する。</p> <p>(4)</p> <p>ク・アフターケアに対応した体制づくりを関係機関と協力して構築する</p> <p>・進学就職等の関係機関とのネットワークの窓口と学校組織との関係をより固める</p> <p>・進路講演会での講師招聘</p> <p>・組織的な進路指導体制づくりを念頭に運営のノウハウを「見える化」する。</p> | <p>(1)</p> <p>ア・「だいせん聴覚高等支援学校版キャリア教育」の発行</p> <p>・「モデル化」の考えをもとに先輩からの経験談や抱負や感想を聞く会を年3回開催する。</p> <p>・学校評価「希望する進路についての丁寧な説明」生徒満足度85%以上</p> <p>・自己管理や意思交換でのタブレット型PC活用事例を発信する</p> <p>イ・遅刻件数250件以下、懲戒件数10件以下とする。</p> <p>・ホームルーム指導計画の作成</p> <p>・学校評価における「生徒指導は適切である」生徒・保護者・教員満足度75%以上</p> <p>ウ・あいさつ週間、清掃活動の実施日数年間25日以上</p> <p>・学校評価「生徒自治会活動」の生徒満足度60%</p> <p>・学校評価「部活動が学校生活を充実」生徒、保護者満足度75%以上</p> <p>(2)</p> <p>エ・「家庭での学習に積極的に取り組む」「目標を持って毎日の学習に取り組む」生徒満足度60%以上</p> <p>・各教科の電子教材化85%</p> <p>・クラウド等のICT活用事例集の作成</p> <p>・学校評価「分かりやすく興味深い授業」生徒満足度70%以上</p> <p>オ・タブレット型PCの生徒の活用状況と理解度調査 理解度90%以上</p> <p>・生徒向け学校評価「目標を持って毎日の学習に取り組む」満足度70%以上</p> <p>・大学等の進学に向けたチームによる指導の実施</p> <p>・基礎学力考査を年2回実施し全体の成績伸び率10%以上</p> <p>・英語力の伸長とICT活用を図った実態。実用技能英語検定等合格者のべ15名</p> <p>(3)</p> <p>カ・ネットを通じた交流を実施し継続的な国際交流の相手校を1校確定する。</p> <p>・ASL(アメリカ手話)等の授業と講習を10回以上実施する。発信を行う。</p> <p>・2大学関係者と連携する。</p> <p>キ・国際コースカリキュラムの作成</p> <p>・短期留学先の確定と交流の実施と手順書の作成</p> <p>(4)</p> <p>ク・アフターケア体制案作成</p> <p>・就職希望者の就職率と大学進学者希望大学進学100%達成</p> <p>・学校評価「進路に関する必要な情報を十分提供」生徒満足度80%以上</p> <p>・アフターケア体制の充実により卒業後3年間の離職率10%以下</p> | <p>(1)</p> <p>ア・「だいせん聴覚高等支援学校版キャリア教育」の作成中(△)</p> <p>・先輩からの就職活動を聞く会、合同面接会の感想文配付等意識喚起の取り組み年4回開催(○)</p> <p>・「希望する進路についての丁寧な説明」は全生徒満足度81%専攻科95%(○)</p> <p>・自己管理・意思交換・情報保障のタブレット型PC活用報告作成(◎)</p> <p>イ・遅刻件数119件、懲戒件数6件(◎)</p> <p>・年間ホームルーム指導計画作成(○)</p> <p>・「生徒指導は適切である」生徒77%・保護者90%・教員68%平均78%(◎)</p> <p>ウ・あいさつ週間、新たな清掃活動を実施年間28日、仁徳天皇陵清掃ボランティアへの生徒参加者が10人(◎)</p> <p>・学校評価「生徒自治会活動」の生徒満足度60%(△)</p> <p>・学校評価「部活動が学校生活を充実」生徒70%、保護者満足度77%(○)</p> <p>部活参加生徒の満足度は、85%以上</p> <p>(2)</p> <p>エ・「家庭での学習に積極的に取り組む」「目標を持って毎日の学習に取り組む」生徒満足度全体50%普通科と専攻科の逆転が起こる。資格取得にチャレンジは70%。意欲と日々の学習のつながりの指導が課題。保護者満足度は95%(○)</p> <p>・各教科のクラウド活用含め、タブレット型PC等ICT活用のための電子教材化85%(○)</p> <p>・クラウド活用含めたICT活用事例報告集集作成(◎)</p> <p>・「分かりやすく興味深い授業」生徒満足度全体88%専攻科は100%(◎)</p> <p>オ・タブレット型PCの生徒の活用状況と理解度調査 理解度90%を超える(◎)</p> <p>・生徒向け学校評価「目標を持って毎日の学習に取り組む」満足度55%(△)</p> <p>・大学等進学補習チームによる毎日の補習体制ができた。(○)</p> <p>・基礎学力考査年2回定着。成績伸び率幅はあるものの伸びている。学力を意識することにつながる(○)</p> <p>・英語力の伸長とICT活用を図った実態。ASL初級資格・実用技能英語検定等合格者15人(○)</p> <p>(3)</p> <p>カ・交流を実施した。継続的な国際交流をタイのラチャスターカレッジと実施タイスタディツアー3人参加(◎)</p> <p>・ASL(アメリカ手話)授業・講習を35回のべ136人実施。新聞、テレビ等で報道。(◎)</p> <p>・筑波技術大学、タイマヒドール大、神戸大関係者と連携できた(◎)</p> <p>キ・国際コースカリキュラム作成、28年度より国際コース設置(○)</p> <p>・短期留学先ランチャスターカレッジ校と交流実施。手順書作成(○)</p> <p>(4)</p> <p>ク・アフターケア体制を含む進路指導ノウハウ冊子作成(△)発信は、次年度課題となる。</p> <p>・就職希望者の就職率と大学進学者希望大学進学100%(○)</p> <p>・学校評価「進路に関する必要な情報を十分提供」生徒満足度69%。専攻科は86%満足度。本科生徒への情報提供の工夫と進路への意識喚起が課題。</p> <p>・キャリア教育部を中心に事業所等とのネットワークを維持するアフターケア体制により卒業後3年間の離職率は、4.8%(◎)今後も体制を継続。</p> |

府立だいせん聴覚支援学校

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">本人や保護者の思いに寄り添える学校づくり</p> | <p>(1) 安全で安心できる学校教育活動の推進</p> <p>ア 生徒自治会活動を軸に校内外の活動をキャリア教育の視点から見直し、取り組む。</p> <p>(2) 保護者・地域から信頼され、一人ひとりの教職員がやりがいのある学校づくり</p> <p>ア 個別の教育支援計画、個別の移行支援計画の活用を検討した事例をまとめ保護者に配布活用方法を周知する。</p> <p>イ センター機能の充実を図り、聴覚障がい生徒の教育相談等の支援機能の強化を図る。</p> | <p>(1)</p> <p>ア・生徒自治活動を支援し、生徒会の一環として校内外の美化活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路を含めた地域の安全への意識向上 ・25年度作成した「ハザードマップ」や「お願い手帳」を活用方法の点検活動 ・キャリア教育の視点から生徒会の係活動を見直す ・あいさつ週間、清掃活動の実施 ・仁徳天皇陵の清掃活動への参加 <p>(2)</p> <p>ア・個別の教育支援計画、個別の移行支援計画の研修を研究部で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解度のアンケートを取り 80%の理解度達成を図る ・保護者向けに啓発プリントを計画的に配布し理解を促す ・個別の指導計画等の懇談の際に各担任よりそれぞれの計画の意義を説明・理解促進 <p>イ・教育支援連携室（D-センター）による広報活動と学校紹介活動の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校のコーディネータとの関係構築を図り、連携を深める。 ・関係聴覚支援学校との関係強化と本校のセンター機能の周知を図る。 | <p>(1)</p> <p>ア・地域等への生徒自治会活動の美化活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価「生徒自治会活動に関心を持って参加している」生徒満足度 60%以上特に本科生 50%以上 ・学校評価「緊急時に関する対応の指導」生徒満足度 80%以上 ・ハザードマップの改定を行い各生徒の避難場所をより明確にする。 ・清掃活動への生徒参加人数 10人以上 <p>(2)</p> <p>ア・学校評価「懇談時に個別の教育支援計画についての説明」保護者満足度 95%以上にして進路への意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価「希望する進路について丁寧に指導」「個別の教育支援計画の内容の説明」を本科生保護者満足度 75%以上としキャリア教育への意識を高める。 <p>イ・センター機能をより充実させるための学校訪問を実施。関係府立高校訪問 10 校。中学校難聴学級設置校等中学校訪問 30 校以上。</p> | <p>(1)</p> <p>ア・生徒自治会活動による通学路清掃活動を 2 回実施のべ 30 人参加 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒自治会活動に関心を持って参加している」生徒満足度 43% (+6%) 本科生 40% (△) 昨年より活動の幅は広がり充実してきたがより多くの参加を促す取組みが課題である。 ・「緊急時に関する対応の指導」全生徒満足度 69%専攻科 82%保護者 94%である。(△) ・ハザードマップ改定実施、各生徒の避難場所をHR等で確認 (○) ・仁徳天皇陵清掃活動への生徒参加人数 10 人 (○) 地域活動への意識が高まる <p>(2)</p> <p>ア・「懇談時に個別の教育支援計画についての説明」保護者満足度 94%(○)進路への意識はキャリア教育部と連携した取り組み「モデル化」で継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「希望する進路について丁寧に指導」本科生満足度は 75% (○) 専攻科は 95%である。「個別の教育支援計画の内容の説明」を保護者満足度 94%である。(◎) キャリア教育への意識を継続して高める必要はある。 <p>イ・パンフレット 570 部配付。関係府立高校訪問 10 校。中学校難聴学級設置校等中学校訪問 24 校。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学高校に対して教員への支援 50 人、相談対応生徒数 45 人、相談等訪問回数 36 回 (○) 専攻科の認知度が高まる、また公立中学校からの入学生徒が増えた。希望者も多いことが分かった。 |
|---|---|---|---|---|

府立だいせん聴覚支援学校

| | | | | |
|--------------------------------|---|--|--|--|
| <p>聴覚高等支援学校として、より質の高い教育の提供</p> | <p>(1) 教職員一人ひとりの資質の向上と専門性の向上をタブレット型PC・文字情報システム・電子黒板等ICT機器(授業力向上、教材開発等)を活用して行う</p> <p>ア タブレット型PC等ICT機器を活用した授業実践のまとめを行い公開研究会を行う</p> <p>イ キャリア教育をより生徒に理解しやすいようICT機器等を活用しながら行う</p> <p>ウ 公開授業週間や研究授業での、反省アンケートや授業アンケートを活用した授業改善</p> <p>エ 国際的視野に立つ教育の提供</p> <p>オ 高大連携によるキャリア教育の充実と進路拡大を図る</p> | <p>ア・情報部の充実を図り、ICT機器活用の研究や授業活用例の集積とまとめを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用モデル教室の設置を行う。 ・電子黒板ユニット等を活用した授業の導入 ・タブレット型PCと文字情報システム等と連携した校内ICT活用体制の構築 ・研究部と連携して研究授業や公開授業を活用した授業 ・授業記録の電子化 ・学校クラウドの運用 ・家庭学習への活用を図り反転学習を行う ・保護者への家庭学習の啓発活動 <p>イ・本校のキャリア教育をまとめ校外の教育活動をキャリア教育の視点から見直した「だいせん聴覚高等支援学校キャリア教育」を発行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話等をとおしてキャリア教育と職業教育の理解を図る ・先輩の力を借りたモデル化の取組み ・タブレット型PCによる時間管理・日程管理 ・タブレット型PCによる話や連絡の記録をメモする ・各種検査の意義の理解教材作成 ・専攻科「ビジネス基礎」の内容精選 ・生徒指導とキャリア教育の関係性の理解 ・キャリア教育の観点による成績評価の徹底。 ・図書館等の利用をとおしたキャリア教育 ・より一層学力向上を図るために生徒が理解しやすい教科書の選定を選定委員会で行う。 <p>ウ・授業の課題を26年度学校評価や公開授業週間での反省アンケート、授業アンケート結果等を活用して各教員や教科会で検討し改善を図り、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校クラウドを活用して新たな授業へ挑戦する ・タブレット型PC活用による生徒の探索学習の活用 <p>エ・ASL(アメリカ手話)等講習会の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型PC等ICT機器を活用した教員交流の実施 ・海外体験の支援と教員の派遣 <p>オ・本科による高大連携を行い、進路への意欲を高める取り組みとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専攻科において高大連携を検討しカリキュラムの課題を明らかにする。 ・文科省担当調査官との連携体制を築く | <p>ア・タブレット型PCの活用状況調査による活用度100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型PC等ICT機器相互の連携した取り組み実践10例以上 ・学校評価「家庭での学習への積極性」生徒満足度75%以上 ・保護者向け学校評価の具体的な項目で満足度80%以上 <p>イ・学校評価「職業教育における各種検査の結果の説明」生徒満足度75%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を整理した、まとめの作成 ・学校設定教科「ビジネス基礎」の専攻科実施 ・タブレット型PC活用状況調査の実施 ・学校評価「図書館をよく利用する」生徒満足度50%以上 ・学校評価「分かりやすく興味深い授業」「目標をもって毎日の学習に取り組む」の項目で生徒満足度共に75%以上 <p>ウ・学校評価「教え方にさまざまな工夫があるか」生徒満足度90%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間の各期の参観教員数のべ30名、授業アンケート20名分 ・学校評価「家庭学習に取り組む」生徒満足度70%以上とする。特に本科生徒については「毎日の学習」「家庭学習」において50%以上 <p>エ・ASL(アメリカ手話)等の基本・中級獲得教員5人以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット電話等をとおしたタイの教員等と相互交流できる教員5人以上 ・タイの交流校とのインターネット電話等を使った授業交流を3回以上とし、作品等との文化交流も行う <p>オ・筑波技術大学との高大連携を行う。相互交流によるまとめの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム課題をまとめ報告とする。2大学から助言を得る ・文科省、特別支援教育研究所との意見交流を実施する。 | <p>ア・情報部の充実を図り、ICT機器活用の研究や授業活用例の集積とまとめを行う。全国対象の研究報告会を実施104人参加(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型PCの活用状況調査による活用度95%公開授業等ほとんどの授業でタブレット型PC等ICT機器活用の授業を行う。(◎) ・タブレット型PC活用を中心にした公開研究授業を報告会で6授業実施。(◎) ・校内ICT活用体制構築(◎) ・「家庭での学習への積極性」生徒満足度47%。学校クラウドの活用を次年度以降を推し進め、自学自習・自己管理・自己表現の力を高める指導を継続しなければいけない。 ・「工夫した分かりやすい授業」での保護者満足度96%(○)タブレット型PC活用が保護者にも浸透、行事でのタブレット型PCでの情報保障の活用を継続して行う。 <p>イ・キャリア教育を整理し、まとめ「だいせん聴覚高等支援学校キャリア教育」発行(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「職業教育における各種検査の結果の説明」生徒満足度75%以上 ・学校設定教科「ビジネス基礎」の専攻科実施(○) ・タブレット型PC活用状況調査の前期・後期で継続的に実施、実態の把握からICTだよりの発行を行う8号発行(○) ・学校評価「図書館をよく利用する」生徒満足度37%ICT機器の活用を図る工夫等必要。補習での活用は増えているが数字に反映していない(△) ・「分かりやすく興味深い授業」65%専攻科は86%「目標をもって毎日の学習に取り組む」55%専攻科は57%の生徒満足度であった。キャリア意識をより高める指導が必要。指導方法の工夫は88%の満足度。(○) <p>ウ・「教え方にさまざまな工夫があるか」生徒満足度90%(○)専攻科100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間参観教員数のべ60名、授業アンケートの回収も高く反省会で活用(○) ・本科生徒・専攻科生徒ともに「毎日の学習」「家庭学習」の継続に向けた指導の工夫が必要、学校クラウドの活用をより進めることが課題。 <p>エ・ASL(アメリカ手話)等の基本の指導やタイの教員等と相互交流を英語科教員で実施(○)S</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイの交流校やハワイとのインターネット電話等を使った授業交流を3回実施、また台湾Tの学校との交流会実施(○) <p>オ・筑波技術大学との高大連携事業を行う(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互交流による共同研究の実施(○)課題研究等の作品の3Dプリンターによる立体化やASLの遠隔授業を行なった。 ・筑波技術大学数学教員による授業を本校で行う、カリキュラム課題を検討している。次年度、本格的に実施。 ・文科省、特別支援教育研究所との意見交流を実施し、また講師派遣を行い本校教育内容の発信につながった。(○) |
| | | | | |